



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する病気認知が一般市民のメンタルヘルスに及ぼす影響

安達圭一郎（医学系研究科保健学専攻）・矢田浩紀（帝京大学）・大達亮（大阪大学）

問題

コロナ感染症（以下COVID-19）パンデミックは、人々の身体のみならず心理面に多大な影響を及ぼしつつ世界を席捲している（Liu et al, 2021など）。わが国においてもCOVID-19そのものの脅威と同時に、感染予防策に付随する社会的孤立、失業などの雇用問題、収入低下などが複合して人々のメンタルヘルスに深刻な問題となっている（Yamamoto et al, 2020）。一方で、パンデミックが人々に与える影響の程度には個人差があることも知られている（Zacher & Rudolph, 2021）。本研究では、個人差要因としてCOVID-19に対する不安やイメージ（病気認知）に注目し、個人のメンタルヘルスとの関連性について検討する。これらの要因は、COVID-19の治療に要する期間、後遺症の程度、パンデミック収束までの期間など、時間的側面と密接に関連している。

研究Ⅰ

目的

COVID-19不安を測定する尺度のわが国への適応可能性について吟味する。

方法

日本全国に在住する18～69歳の男女550名を対象にオンライン調査をおこなった。調査内容は、日本版FCV19-S（5段階）、COVID-19に対する病気認知尺度（11段階：Adachi et al, 2015）、K6（心理的苦痛：5段階：Furukawa et al, 2008）、日本語DASS15（4段階：安達ら, 2011など）、COVID-19関連者へのスティグマ尺度（4段階：星越ら, 1994; Griffith et al, 2004）。

結果と考察

古典的テスト理論、項目反応理論による分析の結果、得点分布、信頼性・妥当性、項目特性、尺度特性の全ての面でわが国における使用に十分耐えうる尺度であることが確認された（Figure 1, Figure 2）。

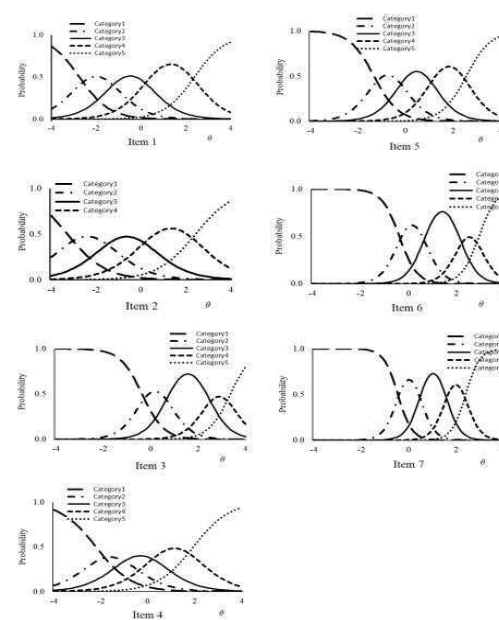


Figure 1. The Item Response Category Characteristic Curve for the Japanese-version FCV-19S. FCV-19S = Fear of COVID-19 Scale.

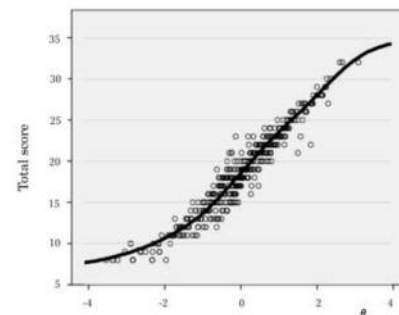


Figure 2. Relationship between the Test Characteristic Curve and scatter diagram (θ and the total scores of the Japanese-version FCV-19S). FCV-19S = Fear of COVID-19 Scale.

研究Ⅱ

目的

COVID-19パンデミックが人々に与える心理的影響の程度には個人差がある（Zacher & Rudolph, 2021）。個人差変数として、個人の時間概念と関係の深い病気不安（怖れ）と病気認知を取り上げ、一般市民の心理的苦痛やスティグマ（偏見・差別）形成過程とどう関わるか吟味する。

方法

研究Ⅰと同様。

結果と考察

重回帰分析の結果、高年齢であること、COVID-19に対する高い不安（怖れ）、低い自己コントロールの可能性認知が、一般市民の心理的苦痛を予測した（Table 1）。また、性別（男＜女）、基礎疾患の有無（無＜有）、COVID-19に対する高い不安（怖れ）、長期の治療期間を要するとする認知、低い治癒可能性認知、低い理解レベルが、COVID-19関連者へのスティグマ形成を予測した。（Table 2）

Table 1 Factors predicting the psychological distress (K6)

Independent variables	Standardized partial regression coefficients	Partial regression coefficients	95%CI	Multicollinearity (VIF)
個人属性				
性別（女性=1）	0.014	0.152	-0.689 ~ 0.994	1.22
年齢	0.184 **	0.068	0.037 ~ 0.099	1.33
婚姻（既婚=1）	0.071	0.753	-0.083 ~ 1.589	1.17
コロナ不安	-0.393 **	-0.419	-0.507 ~ -0.322	1.31
病気認知				
日常への影響	0.004	0.009	-0.178 ~ 0.196	1.56
治療期間	-0.053	-0.137	-0.369 ~ 0.096	1.57
自己コントロールの可能性	0.109 **	0.249	0.064 ~ 0.433	1.27
治療可能性	0.075	0.207	-0.008 ~ 0.421	1.17
重症度	-0.041	-0.116	-0.358 ~ 0.127	1.46
病気理解	-0.075	-0.206	-0.434 ~ 0.016	1.27

* $p < .05$ ** $p < .01$

Table 2 Factors predicting the stigma related to COVID-19

Independent variables	Standardized partial regression coefficients	Partial regression coefficients	95%CI	Multicollinearity (VIF)
個人属性				
性別（女性=1）	0.114 **	1.009	0.265 ~ 1.753	1.21
年齢	0.024	0.007	-0.019 ~ 0.034	1.23
基礎疾患（有=1）	-0.105 *	-1.234	-2.162 ~ -0.306	1.08
コロナ不安	0.172 **	0.154	0.077 ~ 0.232	1.29
病気認知				
日常への影響	0.014	0.024	-0.141 ~ 0.189	1.54
治療期間	0.191 **	0.413	0.207 ~ 0.619	1.57
自己コントロールの可能性	-0.072	-0.137	-0.300 ~ 0.026	1.26
治療可能性	-0.149 **	-0.343	-0.533 ~ -0.152	1.17
重症度	0.012	0.028	-0.188 ~ 0.244	1.47
病気理解	-0.118 **	-0.274	-0.477 ~ -0.071	1.27

* $p < .05$ ** $p < .01$



山口大学研究プロジェクト
コロナの時間学 ～新型コロナウイルスが人間と社会に対して与える時間的影響～

研究成果報告書

主研究者	安達 圭一郎	所属	大学院医学系研究科保健学専攻
共同研究者	矢田浩紀：帝京大学福岡医療技術学部准教授 大達 亮：大阪大学大学院医学系研究科助教		
研究課題名			
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する病気認知が一般市民のメンタルヘルスに及ぼす影響			
研究内容と成果の概要			
コロナ感染症（以下 COVID-19）パンデミックは、人々の身体のみならず心理面に多大な影響を及ぼしつつ世界を席捲している（Liu et al, 2021 など）。本研究は、COVID-19 パンデミックが心の健康や偏見・差別といったスティグマ形成に影響するメカニズムについて、個人が持つ時間概念と深く関連する COVID-19 に対する不安（怖れ）やイメージの観点から吟味する。本研究で得られた知見を、COVID-19 パンデミック下における一般市民のメンタルヘルス支援につなげたい。 研究Ⅰ 日本版 FCV-19S（the fear of COVID-19 scale）の妥当性研究 目的： COVID-19 に対する不安（怖れ）の程度を測定する尺度として開発された FCV-19S（Ahorsu et al, 2020）の日本語版（Masuyama et al, 2020）について、わが国への適応可能性を詳細に吟味する。 方法： 日本全国に在住する 18～69 歳の男女 550 名を対象にオンライン調査をおこなった。調査内容は、日本版 FCV19-S, COVID-19 に対する病気認知尺度, K6（心理的苦痛：Furukawa et al, 2008）, 日本語 DASS15（安達ら, 2011 など）, COVID-19 関連者へのスティグマ尺度（星越ら, 1994; Grififith et al, 2004）を実施。 結果及び考察： 古典的テスト理論, 項目反応理論による分析の結果, 得点分布, 信頼性・妥当性, 項目特性, 尺度特性の全ての面でわが国における使用に十分耐えうる尺度であることが確認された。 研究Ⅱ COVID-19 に対する不安（怖れ）やイメージ（病気認知）が、一般市民のメンタルヘルスとどう関わるか 目的： COVID-19 パンデミックが人々に与える心理的影響の程度には個人差がある（Zacher & Rudolph, 2021）。個人差変数として、個人の時間概念と関係の深い病気不安（怖れ）と病気認知を取り挙げ、一般市民の心理的苦痛やスティグマ（偏見・差別）形成過程とどう関わるか吟味する。 方法： 研究Ⅰと同様であった。 結果及び考察： 重回帰分析の結果, 高年齢であること, COVID-19 に対する高い不安（怖れ）, 低い自己コントロールの可能性認知が, 一般市民の心理的苦痛を予測した。また, 性別（男<女）, 基礎疾患の有無（無<有）, COVID-19 に対する高い不安（怖れ）, 長期の治療期間を要するとする認知, 低い治癒可能性認知, 低い理解レベルが, COVID-19 関連者へのスティグマ形成を予測した。			

まとめ

COVID-19 パンデミック問題は、まさに時間との闘いという側面が強い。COVID-19 のような収束に長期間を要しかつ実態把握が困難という側面は、市民の不安（恐れ）やネガティブな病気認識につながり、種々の心理的問題を喚起する。この点を踏まえた介入法の策定が望まれる。

研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

【論文発表】

Adachi, K., Yada, H., & Odachi, R. Examination of the Japanese version of the Fear of COVID-19 Scale among Adults Using Classical Test Theory and Item Response Theory. Japanese Psychological Research. (In press).

【学会発表】

安達圭一郎・矢田浩紀・大達亮（2021）. COVID-19 に対する病気認知や不安は一般市民のメンタルヘルスとどう関わるか. 日本健康心理学会第 34 回大会（Web 開催：2021 年 11 月 15 日～21 日）.

【データ利用状況】

上記研究用データとして利用

【研究の有用性を高める活動】

今年度の学会発表論文を学術雑誌に投稿すると同時に、これまでに得られた知見をベースにコロナ禍における一般市民のメンタルヘルス支援プログラムの構築並びにその有効性研究をおこなう。こうした成果を、当面は大学生へのメンタル支援に応用していきたい。